

虫干しワークショップ ①

紙と古文書の専門家と開ける「反古紙(ほごし)の箱」

2019年9月15日(日) 13時～16時30分



虫干しワークショップとは？

季節の変わり目に衣類や書物などを広げて風を通す「虫干し」。いつの間にか私たちのくらしから消えてしまった風景のひとつです。もちろん、虫やカビなどからモノを守るという目的で行うものではありませんが、しまいこんだモノたちを広げ並べながら、時の流れをちょっと止めて一服する、そんな豊かな時間でもあったような気がします。もしかしたら、大量なモノに囲まれてくらしている現代の私たちにこそ、時にはモノにまつわる記憶を反芻し、何が大切なのかを考え、新たな見方を発見するという「虫干し」の機会が必要なのかもしれません。

今回は、その第1弾。

発端は昭和のくらし博物館の理事会でのおしゃべり。NPO理事のお一人の紙の専門家である増田勝彦さんがふとお話しされた、自宅にある手付かずの反古紙の箱の話です。その場に古文書の若き研究者である西村慎太郎さんもいらしたことから、面白そう！ぜひ一緒に開けてみましょうということになりました。専門家の方たちは、普段「紙くず」同然のモノの中から、どんな風に「お宝」にたどり着くのか？その地道な作業と「発見する目」はどんなものなのか？そのワクワクする「過程」をご一緒させていただくワークショップを企画しました。

「古文書」に限らず、「親のアルバムの古い写真」「タンスの奥の古い着物」など、まだまだ虫干ししたいものが足元にたくさんあるように思います。「虫干しワークショップ」シリーズとして続けていこうと思います。



今回虫干しするもの～京都の古書店が捨てかけていた「しわくちの紙くず状の反古」～

■増田勝彦さんの証言

大きなポリ袋に詰め込まれたしわくちの紙屑状の反古。由来は、京都の古書店が地方に出てまとめ買いした際、虫食い和本とその他紙屑状の反古をまとめてミカン箱に入れて送ってきたものです。古書店はそのような物は店に持ち込むと虫が発生するとして、途中のゴミ捨て場に置いてくるのですが、私のリクエストもあり、段ボール1箱1万円で送っていただきました。どの地域の文書かはまだ不明ですし複数地域のものが混じっているかも知れません。40リットル用ゴミ袋に7分目位の量です。

■どんな作業をするのか

とりあえずは、同じ地域の反古をまとめるまでできれば良いのではと思います。旧所有者が分かればその住所をインターネットで調べる位はできるでしょうか。袋を開けて1点ずつシワ伸ばしをして、分類する事になると思います。作業する人はマスクが必須です。

さて！どんなものが飛び出すか？いっしょに過去からやってきた謎の箱を開けましょう。（下中菜穂 記）

企画・参加者

■増田勝彦さん

昭和17年、東京都目黒区生まれ目黒区育ち。大学の林学科を卒業した後、職人を目指し表具師として修業。その後東京文化財研究所で研究員として働くうち、手漉き和紙の技術と歴史に行き当たる。昭和女子大学では、文化財保存の講義を受け持ち、光葉博物館で館長として展覧会の企画をしてきた。元・昭和女子大学教授。和紙文化研究会副会長。現在、手漉き和紙の職人を支援する他、紙製文化財を中心とした保存技術と日本・アジアの製紙技術史の調査を継続している。

季刊誌聚美に「紙の万華鏡」を連載中。昭和のくらし博物館では年末恒例の糊と刷毛を駆使した「障子張り」を指導。

○和紙文化研究会 <http://washiken.sakura.ne.jp/>

■西村慎太郎さん

昭和49年、東京都青梅市生まれ。学習院大学大学院修了後、学習院大学助手などを経て、国文学研究資料館准教授。

博士(史学)。専門は日本近世史および地域歴史資料の保全。地域に遺された貴重な古文書などを保全するため、NPO法人歴史資料継承機構じゃんぴんを立ち上げた。学生時代に「古文書は博物館にしかないものではないんだ」と気がついて以来、捨てられかけた民家の古文書を解説、整理する保護活動に取り組んできた。2017年からは福島第一原発周辺で、復興という名のもとに失われつつある歴史と人々の暮らしを残すために、歴史と避難先の住民の生活をまとめた冊子を、住民に配布する活動も。

クラウドファンディングで資金を集め今秋から10年間毎年1冊刊行予定。

○NPO法人歴史資料継承機構じゃんぴん <http://rekishishiryō.com/>

■下中菜穂(企画)

昭和35年生、千葉県千葉市育ち。東京都大田区在住。造形作家。もんきり研究家。出版社エクスプランテ、本と工房の家主宰。

江戸時代の切り紙「絞切りあそび」を通して「かたち」に込められた祖先の暮らしや文化、自然観などを紹介。文様を暮らしの中で使い楽しむ生活文化を現代によみがえらせるべく活動。国内外で「切り紙ーくらしの手仕事」のフィールドワークを続ける。旧暦で行事を研究する「旧暦カフェ」主宰。20世紀のくらしと手仕事などを記録した映像の百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」の活用チームとして「観る。やってみる。問い続ける」実験的な上映会やワークショップを展開。

○エクスプランテ <https://www.xpl.jp>

○本と工房の家 <http://hontokoubou.tumblr.com/>

○映像の百科事典エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ <http://ecfilm.net/>

今回は3人とも昭和のくらし博物館の理事。NPO活動をそれぞれの専門技術とアイデアとハートで応援する理事会発の企画です。

日時：2019年9月15日(日) 13:00~16:30

会場：昭和のくらし博物館 談話室

参加費：1,500円 (入館料込・お茶おやつ付)

申込：下記を明記の上、昭和のくらし博物館までメール・FAX・電話(開館時間のみ)でお申込み

氏名・住所・電話番号(当日連絡のつく番号)・FAX・メールアドレス(PCメールを受信できるもの)

メール：mail@showanokurashi.com / 電話・FAX：03-3750-1808



昭和のくらし博物館

開館日：金・土・日・祝日

開館時間：午前10:00~午後5:00

入館料：大人 500円 小学生~高校生 300円

〒146-0084 東京都大田区南久が原2-26-19

<http://www.showanokurashi.com>

mail@showanokurashi.com

tel/fax 03-3750-1808

(電話でのお問合せは開館日の開館時間中をお願いします)

